

# 業務及び財産の状況に関する説明書

【2023年3月期】

この説明書は、金融商品取引法第46条の4の規定に基づき、全ての営業所若しくは事務所に備え置いて公衆の縦覧に供するため、又はインターネット等で公表するために作成したものです。

光世証券株式会社

# 目次

	頁
<b>I 当社の概況および組織に関する事項</b> .....	1
1. 商号 .....	1
2. 登録年月日(登録番号) .....	1
3. 沿革および経営の組織 .....	1
(1)会社の沿革 .....	1
(2)経営の組織 .....	2
4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合 .....	3
5. 役員 の氏名 .....	3
6. 政令で定める使用人の氏名 .....	4
7. 業務の種別 .....	4
8. 本店その他の営業所又は事業所の名称及び所在地 .....	5
9. 他に行っている事業の種類 .....	5
10. 苦情処理および紛争解決の体制 .....	5
11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称 ..	5
12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号 .....	5
13. 加入する投資者保護基金の名称 .....	5
<b>II 業務の状況に関する事項</b> .....	6
1. 当期の業務概要 .....	6
2. 業務の状況を示す指標 .....	8
(1)経営成績等の推移 .....	8
(2)有価証券引受・売買等の状況 .....	8
(3)その他業務の状況 .....	10
(4)自己資本規制比率の状況 .....	10
(5)使用人の総数および外務員の総数 .....	10
<b>III 財産の状況</b> .....	11
1. 経理の状況 .....	11
①【貸借対照表】 .....	11
②【損益計算書】 .....	14
③【株主資本等変動計算書】 .....	15
2. 借入金の主要な借入先及び借入金額 .....	25
3. 保有する有価証券(トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。)の取得価額、時価及び評価損益 .....	25
4. デリバティブ取引(トレーディング商品に属するものとして経理された取引を除く。)の契約価額、時価及び評価損益 .....	25
5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無 .....	25
<b>IV 管理の状況</b> .....	26
1. 内部管理の状況の概要 .....	26
2. 分別管理等の状況 .....	27
<b>V 連結子会社等の状況に関する事項</b> .....	28
1. 当社及びその子会社等の集団の構成 .....	28

## I 当社の概況および組織に関する事項

1. 商 号 光 世 証 券 株 式 会 社  
The Kosei Securities Co., Ltd.

2. 登 録 年 月 日 2007 年 9 月 30 日  
( 登 録 番 号 ) ( 近 畿 財 務 局 長 ( 金 商 ) 第 14 号 )

### 3. 沿革および経営の組織

#### (1) 会社の沿革

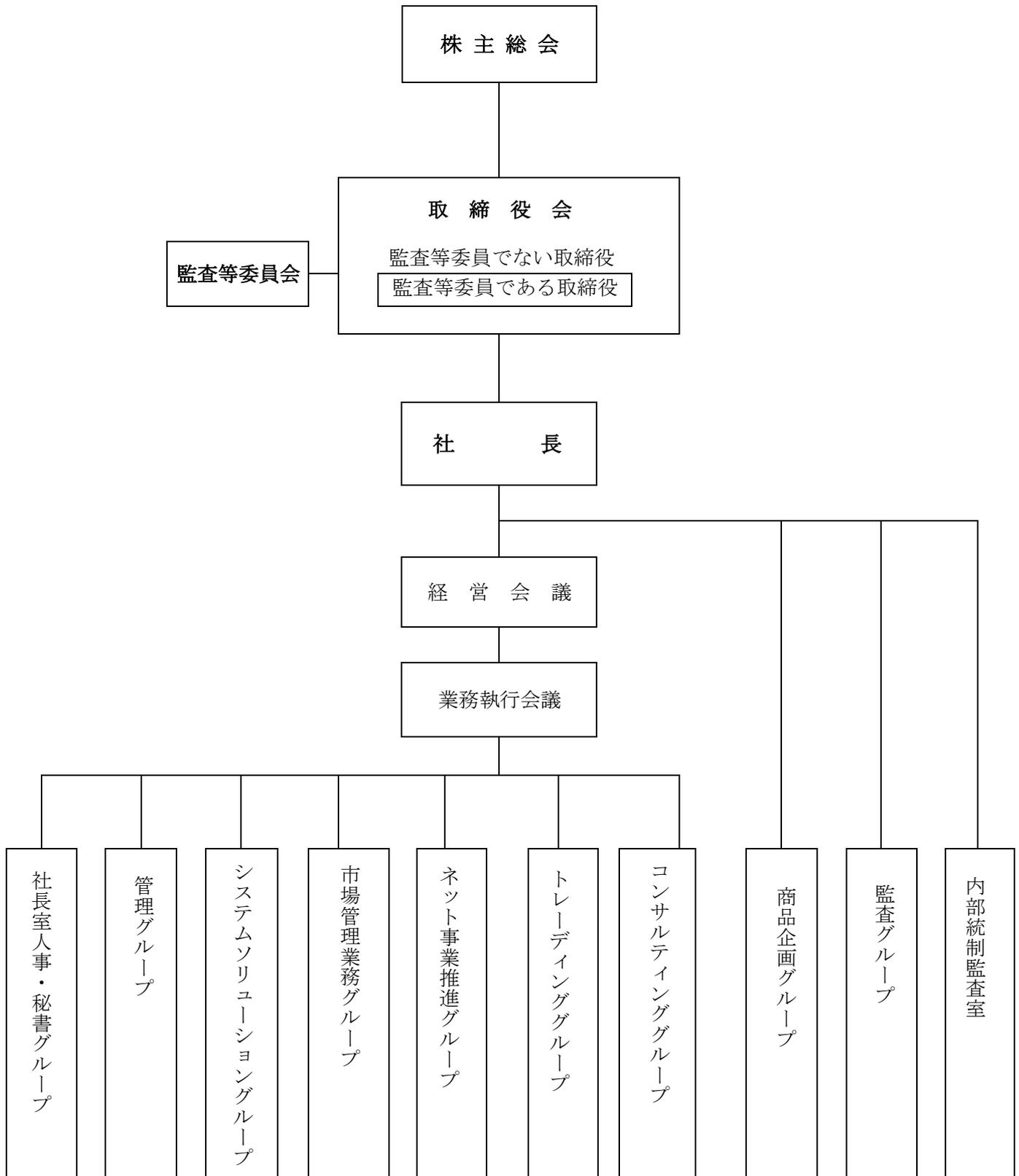
当社は、1961年4月21日、創業者巽悟朗により大阪市東区（現中央区）に証券業を目的とする「光世証券株式会社」として設立されました。

創業後の経過の概要は次のとおりであります。

年 月	沿 革
1968年 4月	免許制施行で大蔵大臣から、第1号、第2号、第4号証券免許を受ける
1971年 10月	大阪証券取引所正会員に加入
1973年 12月	広興証券株式会社を吸収合併
1977年 6月	大蔵大臣から第3号免許を受ける
1981年 10月	東京証券取引所正会員に加入
1987年 4月	日本銀行当座預金取引および当座勘定付替取扱いを開始
1988年 5月	当社株式を大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄に上場
1990年 9月	当社株式を大阪証券取引所市場第一部に上場
1991年 2月	当社株式を東京証券取引所市場第一部に上場
1998年 9月	名古屋支店を本店に統合し、国内2店舗となる
1998年 12月	証券登録制への移行により、内閣総理大臣から登録を受ける
1998年 12月	証券投資者保護基金（現 日本投資者保護基金）に加入
1999年 10月	東京都中央区日本橋兜町に東京支店を移転し、同月より営業を開始する
2001年 5月	大阪市中央区北浜に本店を移転し、同月より営業を開始する
2007年 9月	金融商品取引法施行に伴う金融商品取引業のみなし登録を受ける
2009年 6月	第二種金融商品取引業の登録を受ける
2014年 4月	大阪取引所デリバティブ（先物・オプション）全商品のインターネット取引を開始する
2014年 11月	当社証券基幹系システムを、クラウド環境ベースで提供するサービス事業を開始する
2017年 7月	独立ファイナンシャルプランナーとの業務提携により外国私募ファンドの取扱いを開始する
2017年 10月	普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合、単元株式数を1,000株から100株に変更
2017年 11月	東京証券取引所上場の現物株式のインターネット取引を開始する
2020年 7月	大阪取引所上場の商品先物の取扱いを開始する
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分再編に伴い、スタンダード市場へ移行

(2) 経営の組織

当社の経営組織の概要は次のとおりであります。(2023年3月31日現在)



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

(2023 年 3 月 31 日現在)

氏 名 又 は 名 称	保有株式数 (千株)	割合 (%)
1 株 式 会 社 巽 也 蔵	1,838	19.46
2 株 式 会 社 巽 事 務 所	1,464	15.50
3 株 式 会 社 哲 学 の 道 文 庫	922	9.76
4 巽 大 介	525	5.56
5 株式会社日本カストディ銀行 (信託口 4)	404	4.28
6 日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 ( 信 託 口 )	326	3.45
7 振 角 典 子	252	2.67
8 上 田 八 木 短 資 株 式 会 社	149	1.59
9 巽 春 菜	88	0.93
10 金 田 真 吾	87	0.93
そ の 他 (5,108 名)	3,391	35.87
合 計 (5,118 名)	9,450	100.00

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

5. 役員の名

(2023 年 3 月 31 日現在)

役 職 名	氏 名	代 表 権 の 有 無	常 勤 ・ 非 常 勤 の 別
取 締 役 社 長	巽 大 介	有	常 勤
取 締 役	西 川 雅 博	無	常 勤
取 締 役	石 川 卓 也	無	常 勤
取 締 役	山 本 將 晴	無	非 常 勤
取 締 役 (監査等委員)	森 正 行	無	常 勤
取 締 役 (監査等委員)	児 玉 憲 夫	無	非 常 勤
取 締 役 (監査等委員)	村 形 聡	無	非 常 勤

(注) 取締役 山本 將晴、児玉 憲夫及び村形 聡は社外取締役であります。

## 6. 政令で定める使用人の氏名

- (1) 金融商品取引業に関し、法令等（法令、法令に基づく行政官庁の処分又は定款その他の規則をいう。）を遵守させるための指導に関する業務を統括する者（部長、次長、課長その他いかなる名称を有するものであるかを問わず、当該業務を統括する者の権限を代行し得る地位にある者を含む。）の氏名

(2023年3月31日現在)

氏名	役職名
石川 卓也	取締役 システムソリューショングループ兼 ネット事業推進グループ兼 管理部門管掌

- (2) 投資助言業務（金融商品取引法第28条第6項に規定する投資助言業務をいう。）又は投資運用業（同条第4項に規定する投資運用業をいう。）に関し、助言又は運用（その指図を含む。）を行う部門を統括する者（金融商品の価値等（金融商品取引法第2条第8項第11号ロに規定する金融商品の価値等をいう。）の分析に基づく投資判断を行う者を含む。）の氏名

該当事項はありません。

## 7. 業務の種別

- (1) 金融商品取引業（金融商品取引法第2条第8項）

- ① 法第28条第1項第1号に掲げる業務
- ② 法第28条第1項第1号の2に掲げる業務
- ③ 法第28条第1項第3号イに掲げる業務
- ④ 法第28条第1項第3号ロに掲げる業務
- ⑤ 法第28条第1項第3号ハに掲げる業務
- ⑥ 有価証券等管理業務
- ⑦ 第二種金融商品取引業

- (2) 金融商品取引業付随業務（金融商品取引法第35条第1項）

- ① 有価証券の貸借またはその媒介若しくは代理業務
- ② 信用取引に付随する金銭の貸付業務
- ③ 保護預り有価証券を担保とする金銭の貸付業務
- ④ 有価証券に関する顧客の代理業務
- ⑤ 証券投資信託受益証券の収益金・償還金または解約金の支払に係る業務の代理業務
- ⑥ 証券投資信託受益証券の金銭の分配・払戻金または残余財産の分配に係る業務の代理業務
- ⑦ 累積投資契約の締結業務

- (3) 前各号に掲げる業務の他、金融商品取引法により金融商品取引業者が営むことのできる業務

- (4) その他前各号に付随する業務

8. 本店その他の営業所又は事務所の名称及び所在地

名 称	所 在 地
本 店	大阪市中央区北浜二丁目 1 番 10 号
東 京 店	東京都中央区日本橋兜町 9 番 9 号

9. 他に行っている事業の種類

- ①保険業法第 2 条第 26 項に規定する保険募集業務
- ②自ら所有する不動産の賃貸に係る業務
- ③他の事業者の業務に関する電子計算機のプログラムの作成又は販売を行う業務及び計算受託業務

10. 苦情処理および紛争解決の体制

担当専門部署は監査グループ。『苦情紛争処理規程』、『苦情紛争対応要領』を定め、顧客からの苦情等に対して迅速・公平かつ適切な対応を行う体制としている。

なお、苦情等の解決の為の外部機関を利用する措置を講じている。

第一種金融商品取引業

苦情処理及び紛争解決のために、特定非営利活動法人「証券・金融商品あっせん相談センター (FINMAC)」を利用 (FINMACとの間で、手続実施基本契約を締結)。

11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称

日本証券業協会

証券・金融商品あっせん相談センター (FINMAC)

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号

株式会社東京証券取引所

株式会社大阪取引所

13. 加入する投資者保護基金の名称

日本投資者保護基金

## II 業務の状況に関する事項

### 1. 当期の業務概要

当期における国内の景気状況は、ウィズコロナの下で、政府の各種政策の効果もあって社会・経済が回復へと向かいつつあり、先行きも緩やかに持ち直していくことが期待されますが、一方で、世界的なインフレと金融引締めから海外景気が下振れするリスクがあり国内景気への影響が懸念されています。

この期間の国内株式市場は、ウクライナ情勢、物価上昇、米欧中央銀行の金融引き締め政策、円ドルの為替相場、企業業績への期待など、プラスマイナスの要因が交錯し、一進一退の相場展開となりました。日経平均株価は、2万7千5百円を中心に3千円の幅のなかを上下し、期末は前期末の株価とほぼ同じ水準の2万8千円へと戻る動きとなりました。

当社は、「お客様本位の業務運営に係る方針」の下、今時の社会に生まれてきた新しいコミュニケーション・コラボレーションのツールやシステムに合わせながら、オンラインセミナーやオンライン相談など、DX・Webを活用した新たな対面サービスの提供へ向けた取り組みをしています。

コンサルティング部門では、お客様一人ひとりの資産形成ニーズに合わせた金融商品の提供、デリバティブを組み合わせた資産運用の提案等を継続して行っています。当期は、先物や個別株オプションなどデリバティブ取引口座数が増え、国債先物取引の受注に増加が見られたものの、全体の受入手数料は前年に比べて伸び悩み1億41百万円（前期比91.6%）となりました。

自己売買部門では、リスク管理を徹底した上で、株式・デリバティブの取引を行っています。当期は、株式市場がボックス相場となった中、通常のディーリングの成績が振るわず、一方で、保有する有価証券の評価損を計上したことから、トレーディング損益は1億38百万円の利益（同95.8%）となりました。

また、金融収益は、68百万円（同115.4%）、販売費・一般管理費は9億13百万円（同101.4%）となりました。

#### [受入手数料]

当期の受入手数料は、1億41百万円（前期比91.6%）となりました。

#### (1) 委託手数料

当社の株式委託売買高は、金額で150億26百万円（前期比54.8%）、株数で24百万株（同76.1%）となり、株券委託手数料は93百万円（同83.2%）となりました。また、債券委託手数料は20百万円（同391.0%）となりました。

#### (2) その他の受入手数料

その他の受入手数料は9百万円（同88.4%）となりました。

#### [トレーディング損益]

当期のトレーディング損益は1億38百万円の利益（前期比95.8%）となりました。このうち株券等トレーディング損益については1億40百万円の利益（同93.7%）、債券等・その他のトレーディング損益は2百万円の損失（前期5百万円の損失）となりました。

#### [金融収支]

金融収益は68百万円（前期比115.4%）となりました。また、金融費用は16百万円（同88.9%）となり、金融収支は51百万円（同127.6%）となりました。

[販売費・一般管理費]

販売費・一般管理費は9億13百万円（前期比101.4%）となりました。

[特別損益]

当期の特別損益の合計は0百万円の損失となりました。これは金融商品取引責任準備金繰入れによるものであります。

[損益状況]

以上ご報告申しあげました営業活動の結果、当期の営業収益は4億36百万円（前期比97.4%）、経常損益は3億94百万円の損失（前期2億8百万円の損失）、当期純損益は3億97百万円の損失（同2億12百万円の損失）となりました。

## 2. 業務の状況を示す指標

### (1) 経営成績等の推移

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
資本金	12,000	12,000	12,000
発行済株式総数	9,486千株	9,486千株	9,486千株
営業収益	1,111	448	436
(受入手数料)	225	154	141
((委託手数料))	208	141	129
((引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料))	—	0	—
((募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱い手数料))	1	0	2
((その他の受入手数料))	16	10	9
(その他/保険代理店手数料等)	0	0	0
(トレーディング損益)	683	144	138
((株券等トレーディング損益))	680	150	140
((債券等トレーディング損益))	3	0	△2
((その他のトレーディング損益))	△0	△5	△0
純営業収益	1,069	429	419
経常損益	176	△208	△394
当期純損益	162	△212	△397

### (2) 有価証券引受・売買等の状況

#### ① 株券売買高の状況 (電子記録移転有価証券表示権利等に係るものを除く。)

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自 己	14,375	11,979	11,408
委 託	51,841	27,437	15,026
合 計	66,217	39,417	26,435

#### ①-2 株券の売買高の状況 (電子記録移転有価証券表示権利等に係るものに限る。)

該当事項はありません。

② 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱状況（電子募集取扱業務に係るもの及び電子記録移転有価証券表示権利等に係るものを除く。）

（単位：百万円）

区 分	引 受 高	売 出 高	特定投資家向け 売付け勧誘等の 総 額	募 集 の 取 扱 高	売 出 しの 取 扱 高	私 募 の 取 扱 高	特定投資家向け 売付け勧誘等の 取 扱 高
2 0 2 1 年 3 月 期	株 券	—	0	—	2	—	—
	国 債 証 券	300	—	—	—	—	—
	地 方 債 証 券	—	—	—	—	—	—
	特 殊 債 券	—	—	—	—	—	—
	社 債 券	—	—	—	—	—	—
	受 益 証 券	—	—	—	61	—	—
	そ の 他	—	—	—	—	—	—
	合 計	300	0	—	63	—	—
2 0 2 2 年 3 月 期	株 券	4	118	—	1	—	—
	国 債 証 券	300	—	—	5	—	—
	地 方 債 証 券	—	—	—	—	—	—
	特 殊 債 券	—	—	—	—	—	—
	社 債 券	—	—	—	30	—	—
	受 益 証 券	—	—	—	41	—	10
	そ の 他	—	—	—	—	—	—
	合 計	304	118	—	78	—	10
2 0 2 3 年 3 月 期	株 券	—	—	—	—	—	—
	国 債 証 券	400	—	—	—	—	—
	地 方 債 証 券	—	—	—	—	—	—
	特 殊 債 券	—	—	—	—	—	—
	社 債 券	—	—	—	91	—	—
	受 益 証 券	—	—	—	92	—	—
	そ の 他	—	—	—	—	—	—
	合 計	400	—	—	183	—	—

②-2 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況（電子募集取扱業務に係るものに限る。）

該当事項はありません。

②-3 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況（電子記録移転有価証券表示権利等に関する業務に係るものに限る。）

該当事項はありません。

## (3) その他業務の状況

## ① 公社債の払込金の受入れおよび元利金支払の代理業務状況

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
払込金の受入額	—	5	—
元金の支払額	48	17	219
利金の支払額	3	2	3
元利金の支払額合計	52	19	222

## ② 証券投資信託受益証券の収益金、償還金および一部解約金支払の代理業務状況

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
収益金支払額	35	36	21
償還金支払額	—	—	—
解約金支払額	3,246	404	33

## ③ 有価証券の貸借およびこれにともなう業務の状況（信用取引に係る顧客への融資および貸株）

(単位：千株、百万円)

区 分 期 別	顧客の委託にもとづいておこなった融資額とこれにより顧客が買付けている株数		顧客の委託にもとづいておこなった貸株数とこれにより顧客が売付けている代金	
	株 数	金 額	株 数	金 額
2021年3月期	955	1,375	10	86
2022年3月期	410	936	1	6
2023年3月期	218	577	9	109

## (4) 自己資本規制比率の状況

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自己資本規制比率 (A) / (B) × 100	1,126.0 %	1,161.7 %	926.6 %
固定化されていない自己資本の額 (A)	10,495	10,212	9,748
リスク相当額 (B)	932	879	1,051
市場リスク相当額	665	644	805
取引先リスク相当額	35	25	33
基礎的リスク相当額	231	209	213
暗号等資産等による控除額	—	—	—

## (5) 使用人の総数および外務員の総数

(単位：名)

区 分	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
使 用 人	43	40	40
(うち 外 務 員)	39	36	36

### Ⅲ 財産の状況

#### 1. 経理の状況

##### ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金・預金	6,013	6,188
預託金	3,227	3,977
トレーディング商品	1,436	2,330
商品有価証券等	*2 1,377	*2 2,306
デリバティブ取引	59	23
約定見返勘定	729	-
信用取引資産	1,186	919
信用取引貸付金	936	577
信用取引借証券担保金	250	341
支払差金勘定	-	20
有価証券担保貸付金	7	7
借入有価証券担保金	7	7
立替金	0	0
顧客への立替金	0	0
前払金	0	0
前払費用	14	13
未収入金	3	0
未収還付法人税等	21	17
未収収益	14	16
短期差入保証金	307	224
その他の流動資産	1	0
流動資産計	12,964	13,716
固定資産		
有形固定資産	*1 4,022	*1 3,977
建物	1,243	1,197
器具備品	13	13
土地	2,766	2,766
無形固定資産	2	7
ソフトウェア	1	6
電話加入権	0	0
その他	0	0
投資その他の資産	3,426	3,349
投資有価証券	*2 3,016	*2 2,940
関係会社株式	7	7
長期立替金	86	86
その他	550	549
貸倒引当金	△234	△234
固定資産計	7,451	7,334
資産合計	20,415	21,051

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
トレーディング商品	311	381
商品有価証券等	294	314
デリバティブ取引	17	66
約定見返勘定	-	904
信用取引負債	521	468
信用取引借入金	*2 515	*2 359
信用取引貸証券受入金	6	109
受取差金勘定	40	-
預り金	1,953	2,244
顧客からの預り金	1,937	2,222
その他の預り金	15	21
受入保証金	1,019	1,126
未払金	12	4
未払費用	33	40
未払法人税等	39	43
賞与引当金	14	13
流動負債計	3,946	5,227
固定負債		
繰延税金負債	94	22
退職給付引当金	54	50
役員退職慰労引当金	387	404
その他の固定負債	4	3
固定負債計	541	480
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	*3 4	*3 4
特別法上の準備金計	4	4
負債合計	4,492	5,712

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,000	12,000
資本剰余金		
資本準備金	3,000	3,000
その他資本剰余金	947	727
資本剰余金合計	3,947	3,727
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△172	△397
利益剰余金合計	△172	△397
自己株式	△40	△40
株主資本合計	15,734	15,288
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	189	50
評価・換算差額等合計	189	50
純資産合計	15,923	15,338
負債・純資産合計	20,415	21,051

② 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
営業収益		
受入手数料	154	141
委託手数料	141	129
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	0	-
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	0	2
その他の受入手数料	10	9
トレーディング損益	*1 144	*1 138
金融収益	*2 59	*2 68
その他の営業収益	89	87
営業収益計	448	436
金融費用	*3 18	*3 16
その他の営業費用	-	0
純営業収益	429	419
販売費・一般管理費		
取引関係費	*4 74	*4 77
人件費	*5 417	*5 411
不動産関係費	*6 146	*6 172
事務費	*7 11	*7 12
減価償却費	69	53
租税公課	*8 144	*8 144
その他	*9 36	*9 41
販売費・一般管理費計	901	913
営業損失(△)	△472	△494
営業外収益	*10 263	*10 102
営業外費用	*11 0	*11 2
経常損失(△)	△208	△394
特別損失		
金融商品取引責任準備金繰入れ	0	0
特別損失計	0	0
税引前当期純損失(△)	△209	△394
法人税、住民税及び事業税	3	3
当期純損失(△)	△212	△397

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	12,000	3,000	947	3,947	162	162
当期変動額						
剰余金の配当					△122	△122
剰余金(その他資本剰余金)の配当			-	-		
当期純損失(△)					△212	△212
欠損填補			-	-	-	-
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	△335	△335
当期末残高	12,000	3,000	947	3,947	△172	△172

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額等合計	
当期首残高	△40	16,070	603	603	16,673
当期変動額					
剰余金の配当		△122			△122
剰余金(その他資本剰余金)の配当		-			-
当期純損失(△)		△212			△212
欠損填補		-			-
自己株式の取得	△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			△413	△413	△413
当期変動額合計	△0	△335	△413	△413	△749
当期末残高	△40	15,734	189	189	15,923

当事業年度(自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	12,000	3,000	947	3,947	△172	△172
当期変動額						
剰余金の配当					-	-
剰余金(その他資本剰余金)の配当			△47	△47		
当期純損失(△)					△397	△397
欠損填補			△172	△172	172	172
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	△220	△220	△225	△225
当期末残高	12,000	3,000	727	3,727	△397	△397

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額等合計	
当期首残高	△40	15,734	189	189	15,923
当期変動額					
剰余金の配当		-			-
剰余金(その他資本剰余金)の配当		△47			△47
当期純損失(△)		△397			△397
欠損填補		-			-
自己株式の取得	△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			△139	△139	△139
当期変動額合計	△0	△445	△139	△139	△584
当期末残高	△40	15,288	50	50	15,338

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1. トレーディングに関する有価証券等の評価基準および評価方法

当社におけるトレーディング商品に属する有価証券およびデリバティブ取引等については、時価法を採用しております。

#### 2. トレーディング関連以外の有価証券等の評価基準および評価方法

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)の規定にもとづき、トレーディング関連以外の有価証券等については、以下の評価基準および評価方法を適用しております。

##### (1) 満期保有目的の債券

償却原価法によっております。

##### (2) 子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

##### (3) その他有価証券

###### ① 市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等にもとづく時価をもって貸借対照表価額とし、取得原価ないし償却原価との評価差額を全部純資産直入する方法によっております。売却原価については移動平均法により算定しております。

###### ② 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法ないし償却原価法によっております。なお、投資事業有限責任組合への出資については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な直近の決算書等を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

- ・建物 6～50年
- ・器具備品 3～20年

##### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)にもとづく定額法によっております。

#### 4. 引当金および特別法上の準備金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、当社所定の計算方法により算出した支給見込額を計上しております。

##### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額にもとづき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

###### ①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

###### ②数理計算上の差異の費用処理方法

発生の翌年度に一時処理しております。

##### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規にもとづく支給見込額を計上しております。

##### (5) 金融商品取引責任準備金

証券事故による損失に備えるため、「金融商品取引法」第 46 条の 5 の規定にもとづき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」第 175 条に定めるところにより算出された額を計上しております。

#### 5. 収益及び費用の計上基準

##### 顧客への金融商品・金融サービス提供から生じる収益の計上基準

主にコンサルティング部門において、顧客への金融商品・金融サービスを提供することから生じる報酬および手数料により、収益を獲得しております。顧客との契約によって生じた履行義務は、原則として、顧客が提供する金融商品・金融サービスに対する支配を獲得した一時点に充足され、受入手数料等として収益が認識されます。

##### (会計方針の変更)

##### (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 31 号 2021 年 6 月 17 日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第 27-2 項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる損益に与える影響はありません。

なお、「金融商品関係」注記の金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項における投資信託に関する注記事項においては、時価算定会計基準適用指針第 27-3 項に従って、前事業年度に係るものについては記載しておりません。

##### (追加情報)

我が国経済は、コロナ禍から持ち直しつつあり、今後も、緩和的な金融環境や経済対策の効果にも支えられて、回復を続けるとみられています。一方で、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクがあります。経済情勢が厳しい状況になった場合には、証券業は金融資本市場の変動の影響を受けやすい業態の性格上、当社の経営成績に影響が出る可能性があります。

(貸借対照表関係)

※1 有形固定資産から控除した減価償却累計額

	第62期 (2022年3月31日)	第63期 (2023年3月31日)
建物	1,988百万円	2,033百万円
器具備品	434百万円	439百万円
計	2,422百万円	2,473百万円

※2 担保に供している資産

区分	担保資産の対象となる債務		担保に供している資産		
	債務の種類	期末残高 (百万円)	トレーディング 商品 (百万円)	投資有価証券 (百万円)	計 (百万円)
第62期 2022年3月31日	信用取引借入金	515	217	627	844
	計	515	217	627	844
第63期 2023年3月31日	信用取引借入金	359	367	953	1,320
	計	359	367	953	1,320

(注) 1 担保に供している資産は、期末帳簿価額を記載しております。

2 上記のほか、信用取引の自己融資見返株券を清算基金の代用として第62期は3百万円差し入れております。第63期の差入れはございません。

3 (1) 差し入れた有価証券の時価額

	第62期 (2022年3月31日)	第63期 (2023年3月31日)
	(百万円)	(百万円)
信用取引貸証券	6	108
信用取引借入金の本担保証券	513	668
差入証拠金代用有価証券	1,984	1,150
長期差入保証金代用有価証券	35	36

(2) 差し入れを受けた有価証券の時価額

	第62期 (2022年3月31日)	第63期 (2023年3月31日)
	(百万円)	(百万円)
信用取引借証券	319	110
信用取引貸付金の本担保証券	909	566
受入保証金代用有価証券	1,336	926
受入証拠金代用有価証券	15	25
その他担保として受け入れた有価証券	20	15

※3 特別法上の準備金

特別法上の準備金の計上を規定した法令の条項は、次のとおりであります。

金融商品取引責任準備金

金融商品取引法第46条の5

(損益計算書関係)

※1 トレーディング損益の内訳

第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

	実現損益 (百万円)	評価損益 (百万円)	計 (百万円)
株券等 トレーディング損益	194	△44	150
債券等・その他の トレーディング損益	△3	△1	△5
うち債券等 トレーディング損益	(2)	(△1)	(0)
うちその他の トレーディング損益	(△5)	(0)	(△5)
計	190	△46	144

第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

	実現損益 (百万円)	評価損益 (百万円)	計 (百万円)
株券等 トレーディング損益	213	△72	140
債券等・その他の トレーディング損益	2	△5	△2
うち債券等 トレーディング損益	(2)	(△5)	(△2)
うちその他の トレーディング損益	(△0)	(—)	(△0)
計	216	△77	138

※2 金融収益の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
信用取引収益	31百万円	33百万円
受取配当金	28百万円	34百万円
受取債券利子	0百万円	0百万円
計	59百万円	68百万円

※3 金融費用の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
信用取引費用	14百万円	12百万円
支払利息	0百万円	0百万円
その他の金融費用	3百万円	2百万円
計	18百万円	16百万円

※4 取引関係費の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
支払手数料	14百万円	14百万円
取引所・協会費	27百万円	28百万円
通信・運送費	25百万円	25百万円
旅費・交通費	2百万円	4百万円
広告宣伝費	1百万円	2百万円
交際費	1百万円	1百万円
計	74百万円	77百万円

※5 人件費の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
役員報酬・従業員給与	320百万円	314百万円
その他の報酬・給料	22百万円	23百万円
福利厚生費	43百万円	41百万円
賞与引当金繰入	14百万円	13百万円
退職給付費用	1百万円	1百万円
役員退職慰労引当金繰入	17百万円	17百万円
計	417百万円	411百万円

※6 不動産関係費の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
不動産費	22百万円	19百万円
器具備品費	124百万円	153百万円
計	146百万円	172百万円

※7 事務費の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
事務委託費	10百万円	11百万円
事務用品費	0百万円	1百万円
計	11百万円	12百万円

※8 租税公課の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
事業所税	3百万円	3百万円
外形標準課税	83百万円	82百万円
印紙税	0百万円	0百万円
不動産取得税・固定資産税	37百万円	38百万円
その他	19百万円	19百万円
計	144百万円	144百万円

※9 販売費・一般管理費の「その他」の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
教育研修費・営業資料費	0百万円	0百万円
図書費	1百万円	1百万円
水道光熱費	11百万円	14百万円
諸会費・会議費	2百万円	2百万円
寄付金	0百万円	0百万円
その他	20百万円	22百万円
計	36百万円	41百万円

※10 営業外収益の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
投資事業組合運用益	159百万円	一百万円
受取配当金（その他有価証券）	60百万円	65百万円
為替差益	20百万円	14百万円
取引拡大インセンティブ	11百万円	9百万円
預金利息	5百万円	6百万円
その他	6百万円	7百万円
計	263百万円	102百万円

※11 営業外費用の内訳

	第62期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第63期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
投資事業組合運用損	一百万円	1百万円
その他	0百万円	0百万円
計	0百万円	2百万円

(株主資本等変動計算書関係)

第62期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	9,486	—	—	9,486

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	34	0	—	35

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取による増加

0千株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年4月22日 取締役会	普通株式	利益剰余金	122	13.0	2021年3月31日	2021年6月9日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	その他資本 剰余金	47	5.0	2022年3月31日	2022年6月30日

第63期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	9,486	—	—	9,486

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	35	0	—	35

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取による増加 0千株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	その他資本 剰余金	47	5.0	2022年3月31日	2022年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	その他資本 剰余金	47	5.0	2023年3月31日	2023年6月30日

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

(単位:百万円)

借入先	期 別	第 62 期 (2022 年 3 月 31 日現在)	第 63 期 (2023 年 3 月 31 日現在)
		金 額	金 額
日 本 証 券 金 融		515	359
合 計		515	359

3. 保有する有価証券（トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。）の取得価額、時価及び評価損益

(1) その他有価証券の時価等

(単位:百万円)

	2022 年 3 月 期			2023 年 3 月 期		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
株 式	1,697	2,005	308	1,697	1,800	103
そ の 他	600	562	△37	600	533	△66
合 計	2,297	2,567	270	2,297	2,333	36

(2) 時価評価されていない主な有価証券（上記を除く）の内容及び貸借対照表計上額

(単位:百万円)

	2022 年 3 月 期	2023 年 3 月 期
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
子会社株式	7	7
非上場株式および投資事業 有限責任組合への出資	448	606

4. デリバティブ取引（トレーディング商品に属するものとして経理された取引を除く。）の契約価額、時価及び評価損益

(1) 先物取引・オプション取引の状況

該当事項はありません。

(2) 有価証券店頭デリバティブ取引の状況

該当事項はありません。

5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無

当社は、会社法第 436 条第 2 項および金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定にもとづき、第 62 期事業年度（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで）および第 63 期事業年度（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

## IV 管理の状況

### 1. 内部管理の状況の概要

#### (1) 内部管理組織

内部管理部門は監査グループおよび内部統制監査室で構成されております。

#### (2) 業務分掌

##### 監査グループ

- ・ 内部管理業務全般にわたる企画、立案業務ならびに各部店における内部管理および法令、規則・社内規則等の遵守に関する業務
- ・ 顧客の有価証券売買とその他取引等の状況考査
- ・ 営業員の営業活動等の状況考査
- ・ 業務監査および会計検査の実施ならびに顧客管理等に関する業務
- ・ 公正な株価形成維持の為、法令、取引所・協会の規則遵守と株価形成動向監視業務
- ・ 内部者取引管理規定に基づくインサイダー取引管理に関する業務
- ・ 顧客分別金信託および有価証券の分別管理に関する状況考査
- ・ 反社会的勢力の対応に関する業務
- ・ マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関する業務

##### 内部統制監査室

- ・ 内部統制監査に関する基本方針の企画
- ・ 財務報告に係る内部統制の整備状況、運用状況の検討ならびに評価

#### (3) 顧客からの相談および苦情に対する具体的な取扱い方法および内部管理体制

当社ホームページ掲載のとおり、インターネットによる「お問い合わせフォーム」およびお客様苦情相談窓口（TEL0120-038617）を設置し、顧客からの相談および苦情に対応する体制を整備しております。

## 2. 分別管理等の状況

### (1) 金融商品取引法第43条の2の規定に基づく分別管理の状況

当社は有価証券市場デリバティブ取引と商品関連市場デリバティブ取引に係る分別管理を一括して行っております。

#### ① 顧客分別金信託の状況

(単位：百万円)

項目	2022年3月31日 現在の金額	2023年3月31日 現在の金額
直近差替計算基準日の顧客分別金必要額	2,675	3,406
期末日現在の顧客分別金信託額	3,020	3,630
期末日現在の顧客分別金必要額	2,848	3,352

#### ② 有価証券（電子記録移転有価証券表示権利等を除く。）の分別管理の状況

##### イ 保護預り等有価証券

有価証券の種類		2022年3月31日現在		2023年3月31日現在	
		国内証券	外国証券	国内証券	外国証券
株 券	株 数	18,589千株	915千株	27,377千株	924千株
債 券	額面金額	200百万円	30百JPY	28百万円	30百JPY
		—	921千AUD	—	880千AUD
受 益 証 券	口 数	1,012百万口	0千USD	1,076百万口	0千USD
		—	0百万口	—	0百万口
そ の 他	額面金額	—個	—	8,105個	—

##### ロ 受入保証金代用有価証券

有価証券の種類		2022年3月31日現在		2023年3月31日現在	
		数 量		数 量	
株 券	株 数	2,911千株		3,026千株	
債 券	額面金額	—百万円		—百万円	
受 益 証 券	口 数	7百万口		19百万口	
そ の 他	額面金額	—		—	

##### ハ 保管管理の状況

株 券……口座管理、同業他社3社  
 債 券……日本銀行、だいこう証券ビジネス、同業他社1社  
 受 益 証 券……口座管理、だいこう証券ビジネス、同業他社2社  
 顧客分別金信託……三井住友信託銀行、りそな銀行

#### ③ 対象有価証券関連店頭デリバティブ取引等に係る分別管理の状況

該当事項はありません。

#### ④ 有価証券（電子記録移転有価証券表示権利等（令第1条の12第2号に規定する権利を除く。）に限る。）の分別管理の状況

該当事項はありません。

- (2) 金融商品取引法第 43 条の 2 の 2 の規定に基づく区分管理の状況  
該当事項はありません。
- (3) 金融商品取引法第 43 条の 3 の規定に基づく区分管理（電子記録移転有価証券表示権利等に係るものを除く。）の状況  
該当事項はありません。

## V 連結子会社等の状況に関する事項

### 1. 当社及びその子会社等の集団の構成

当企業集団は、当社および子会社 1 社から構成されております。当社の子会社である株式会社亀山社中は、主たる事業として経営、投資に関するコンサルティング業務等を営むことを目的としておりますが、現在は実質的な事業活動をおこなっておりません。

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和 51 年大蔵省令第 28 号）第 5 条第 2 項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金およびキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準および利益剰余金基準による割合を示すと次のとおりであります。

資 産 基 準	0.0 %
売 上 高 基 準	0.0 %
利 益 基 準	0.1 %
利益剰余金基準	1.6 %

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

以 上